

## 【1】 財政の動向および前年度収支の状況

### 1 財政の動向

令和6年度の一般会計歳入歳出予算は、当初33,520,000千円でありましたが、6月に405,300千円、9月に774,983千円をそれぞれ増額し、9月末現在の予算規模は、34,700,283千円となっています。これを前年度の9月末現在の予算規模31,820,200千円と比較しますと、9.1%の増加となっています。

特別会計の歳入歳出予算は、国民健康保険特別会計ほか2会計総額で当初12,251,000千円でありましたが、9月に102,866千円を増額し、9月末現在の予算規模は、12,353,866千円となっています。これを前年度の9月末現在の予算規模12,314,100千円と比較しますと、0.3%の増加となっています。

事業会計の収益的支出と資本的支出の合計は、水道事業会計ほか2会計総額で13,953,629千円となっています。9月に11,249千円を増額し、9月末現在の予算規模は、13,964,878千円となっています。これを前年度の9月末現在の収益的支出と資本的支出の合計13,746,922千円と比較しますと、1.6%の増加となっています。

### 2 令和5年度普通会計歳入歳出決算の概況

普通会計とは、地方公共団体間の財政比較等のため地方財政統計上統一的に用いる会計区分であり、一般会計と企業会計・事業会計等を含まない特別会計を合算した会計区分です。

令和5年度普通会計決算額は、歳入が32,777,672千円(前年度32,217,131千円)、歳出が32,168,613千円(前年度31,443,638千円)、前年度と比較すると、歳入は560,541千円(1.7%)、歳出は724,975千円(2.3%)の増となりました。

歳入歳出差引額(形式収支)は、609,059千円の黒字となり、翌年度へ繰り越すべき財源を控除した実質収支も、555,490千円の黒字となりました。

歳入においては、自主財源のうち基幹的な財源である市税は、個人市民税が1.1%増、法人市民税が0.3%減となりました。固定資産税は、土地で2.2%、償却資産で0.5%減少しましたが、家屋で2.0%の増となりました。市税全体では0.4%の増となりました。

また、繰入金は財政調整基金等からの繰入金が419,619千円(21.0%)の減となり、自主財源全体で264,386千円(2.6%)の減となりました。

依存財源では、市債が公共施設の長寿命化等に係る合併特例事業債の発

行などにより 517,251 千円 (20.0%) の増となりました。また、地方交付税が 117,154 千円 (1.1%) の増となりました。さらに、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金や物価高騰対応重点支援助地方創生臨時交付金、エネルギー構造高度化・転換理解促進事業補助金の増などにより国庫支出金が 172,759 千円 (4.2%) の増となり、依存財源全体で 824,927 千円 (3.8%) の増となりました。

歳出においては、目的別歳出決算で、総務費では、再生可能エネルギー導入事業の増などにより 0.9% の増、民生費では、電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金や子ども家庭総合支援拠点整備事業の増などにより 9.6% の増、農林水産業費では、農産物等輸出拡大施設整備事業や畜産・酪農収益強化整備等特別対策事業の減などにより 26.2% の減、土木費では、除雪用ドーザの新規購入の増などにより 1.3% の増、消防費では、次期防災行政無線整備事業や消防庁舎改修事業の増などにより 40.3% の増、教育費では、今津中学校大規模改造事業や公民館施設維持補修事業など普通建設費の減などにより 8.3% の減、公債費では、近年の大規模事業の償還が開始されたものの、償還完了額が上回ったことにより 0.6% の減となりました。

次に、性質別歳出決算においては、義務的経費において、扶助費が子育て世帯や住民税非課税世帯に対する臨時給付金などにより 7.7% の増となり人件費、公債費と合わせた義務的経費全体では 3.4% の増となりました。

一般行政経費においては、物件費が新型コロナウイルスワクチン接種事業の減などにより 5.0% の減、補助費等が新型コロナウイルス対策支援事業の減などにより 16.9% の減となり、一般行政経費全体では 11.8% の減となりました。

### 3 令和 5 年度収支の状況

実質収支	555,490 千円	(前年度	687,905 千円)
単年度収支	△132,415 千円	(前年度	△ 73,836 千円)
実質単年度収支	524,552 千円	(前年度	△424,261 千円)

#### (1) 実質収支

令和 5 年度における歳入歳出差引額 (形式収支) は、609,059 千円の黒字となり、翌年度へ繰り越すべき財源を控除した実質収支も、555,490 千円の黒字となりました。

(実質収支 555,490 千円 = 歳入 32,777,672 千円 - 歳出 32,168,613 千円 - 翌年度繰越財源 53,569 千円)

(2) 単年度収支

当該年度の実質収支から前年度の実質収支を差し引いた単年度収支は、132,415千円の赤字となりました。

(単年度収支△132,415千円＝令和5年度実質収支 555,490千円－令和4年度実質収支 687,905千円)

(3) 実質単年度収支

単年度収支に財政調整基金への積立額および地方債の繰上償還金を加え、財政調整基金の取崩額を差し引いた実質単年度収支は、524,552千円の黒字となりました。

(実質単年度収支 524,552千円＝単年度収支△132,415千円＋財政調整基金積立金 1,256,967千円＋繰上償還金 0千円－財政調整基金取崩額 600,000千円)